

《事務事業の手段と活動指標》【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H25実績	H26実績	H27実績	H28計画
① 橋りょう維持工事請負事業	老朽化した橋梁の工事を行う。	工事発注橋りょう数	橋		1	0	3
② 橋りょう維持委託事業	橋りょう事業のメンテナンスサイクルに有効な委託を行う。	業務委託発注数	本		1	0	1
③							
④							
⑤							

《事務事業の成果》【19】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H25目標	H26目標	H27目標	H28目標
			H25実績	H26実績	H27実績	
1 橋りょう措置件数 ※橋りょう長寿命化事業と合算	橋りょう措置(修繕・工事・架替)件数 (H27時点保有数823橋)	橋		2	4	6
				3	4	
2						

《事務事業の評価》

評価項目		評価の視点	評価	評価の説明
妥当性 (判定) A	実施主体の妥当性 【20】	市が実施すべき事業か。また、民間やNPO等他の団体では実施できない事業か。	<input type="checkbox"/> 問題あり <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし	事業の休止は橋りょうの安全性が確保されず、地域道路網の支障となる。
	目的の妥当性 【21】	税金を使って達成する目的か。また、市民ニーズの低下により役割が薄れていないか。	<input type="checkbox"/> 問題あり <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし	
	廃止・休止の影響 【22】	事業を止めた場合、受益者に不利益が生じる等の影響があるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 影響あり <input type="checkbox"/> 影響なし	
有効性 (判定) B	目標の達成度 【23】	成果指標の目標値は達成できたか。	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	①マンパワー不足の解消を行う。 ②技術力向上を目的として、専門協会が主催する講習会を利用した積極的な継続研鑽(CPD)を行う。
	成果向上の余地 【24】	成果がもっと上がる余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地あり <input type="checkbox"/> 余地なし	
	上位施策への貢献度 【25】	上位施策の目的達成に貢献しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> 十分 <input type="checkbox"/> 不十分	
効率性 (判定) D	コスト低減の余地 【26】	コストの低減について、これ以上検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地あり <input type="checkbox"/> 余地なし	市町村が抱える財政力不足・技術力不足・人員不足の課題を解決すべく、点検業務の民間活用、真に必要な橋梁の把握、地域の実情にあった橋梁補修、職員の拡充等を行う。
	民間の活用の余地 【27】	民間委託など民間活力の活用について、これ以上検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地あり <input type="checkbox"/> 余地なし	
	執行方法改善の余地 【28】	事務事業の執行上、簡素化又は改善できるプロセスはないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地あり <input type="checkbox"/> 余地なし	
	事業統合の余地 【29】	類似する他の事務事業との統合について、これ以上検討の余地はないか。	<input type="checkbox"/> 余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 余地なし	
公平性	受益者負担の余地 【30】	受益者負担について、これ以上検討の余地はないか。また、対象、負担額等は適切か。	<input type="checkbox"/> 余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 余地なし	

《今後の方向性と改善》

今後の方向性 【31】	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充して継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小を検討 <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討 <input type="checkbox"/> 細事業の効率化【 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 民間活用 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> 廃止 】
判断理由及び見直し・改善の具体的内容	道路法施工規則改正により、全ての橋りょうにおいて、点検→診断→措置→記録を5ヶ年毎に行うメンテナンスサイクルが義務化された。そのため、現在策定されている橋梁長寿命化修繕計画による修繕計画は不可となり、法令順守を行える予算措置と体制作りが急務となった。よって、財政力不足・技術力不足・人員不足を解決できる方法を模索する。
昨年からの見直し・改善状況 【32】	橋りょう事業を担当する職員を増やし、業務の簡素化が図れる様、システム導入を図った。さらに、本システムはメンテナンスサイクルの記録で活用できるものを選定し、管理効果を高めた。

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見 【33】	橋りょうの老朽化が進む中で、損傷度の高い橋梁より工事を行っていく。	評価責任者 前田 慎一郎
----------------------	-----------------------------------	-----------------